

大阪市イノベーション促進評議会 平成 26 年度第 1 回 会議要旨

- 1 日 時 平成 26 年 11 月 14 日 (金) 9:30~11:00
- 2 場 所 大阪イノベーションハブ (WEB 会議)
- 3 出席者
(委員)
松本委員長、藤沢委員、外村委員、吉原委員、田路委員
(経済戦略局)
吉川理事、折原課長、角課長代理、小林課長代理
- 4 議 題
平成 26 年 4 月~9 月の大阪イノベーションハブの活動状況について等
- 5 議事要旨
意見等の概要は以下のとおり。
 - (1) 委員長の辞職報告並びに新委員長、新委員長職務代理の選任
 - ・昨年度委員長を務めて頂いていた校條氏から評議会委員退任の申し出があり、後任として、松本委員を委員長に、吉原委員を委員長の職務代理として選任。
 - (2) 平成 26 年 4 月~9 月の大阪イノベーションハブの活動状況と自己評価、大阪ハッカーズクラブメンバー (プレイヤー、パートナー) へのヒアリング状況について
 - ・自立したイノベーションのハブとなるよう、オープンイノベーションを志向する企業などを巻き込み、さらに大学等研究機関、国の地方活性化施策や近隣自治体との共同事業に転換すべく、来年度活動すべき。
 - ・企業との共同企画では、参加者を限定するなどの配慮も必要。
 - ・すぐにイノベーションの効果が出なくても、学生など若い人がここの取組に刺激を受けてなにかをしようと思う人が増えてくることが重要。
 - ・マスコミで取り上げられる数も増えている。多くのイベントに多くの集客を得ることで認知度が高まっておりブランディングの効果。
 - ・海外を巻き込んでいく方法としては、留学生が集まる場をつくるとか、IT 業界の状況を中心に英語で海外に情報発信をしている日本発のメディアを活用する。
 - ・イベント参加者が、参加を契機にどう変わったか、どう思ったかといった生の声をひろう中に、大きなヒントが含まれている。
 - ・プロジェクトを創出していく中で、特筆すべき成功事例を育てていかなければならない。ここの追加機能として本格的にインキュベーション、アクセラレーターの役割も担っていくことも必要。

6 会議資料

- (1) 資料1 平成26年度事業（4月～9月）にかかる目標設定とアウトカム（成果）について
- (2) 資料2 主なプログラム、イベントについて
- (3) 資料3 大阪ハッカーズクラブメンバー（プレイヤー、パートナー）へのヒアリング状況について